

戦略管理会計 全6回 (講師:早稲田大学経営専門職大学院教授 西山茂)



【テーマ】

- 第1回 管理会計とは何か・短期的意思決定
- 第2回 損益分岐点分析・長期的意思決定(1)(フリーキャッシュフローとWACC)
- 第3回 長期的意思決定(2)(NPV、IRR、回収期間法)
- 第4回 標準原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算(ABC)
- 第5回 業績管理の仕組み
- 第6回 企業価値の評価とそれを創造する仕組み

【参考図書】

戦略管理会計
西山茂(著)
¥3,360(税別)



【コンセプト】

勤と経験だけでは生き残れない — めまぐるしい環境変化に即応し、的確な手を打つためには、定性的な情報を定量的な情報(データ)に置き換えて分析し、その結果に裏打ちされた戦略立案が不可欠です。そして、こうした経営管理を行ううえで、「管理会計」は極めて有効なツールとなります。

本講座では、その管理会計について、基本的手法からキャッシュフロー分析に至るまで、客観的なデータにもとづき**意思決定を行う場合の管理会計の活かし方**、さらには**業績管理における管理会計の活かし方**を、事例を交えながらわかりやすく解説します。
(講義時間 合計6時間)

【講義資料より】

管理会計と財務会計の違い	
1 利用目的	内部での経営管理のために VS 外部への情報公開のために
2 ルール	ツールはあるがルールはない VS ルールがある
3 情報量	集計方法によってかなり多い VS 限界がある
4 求められるデータの性質	スピード 正確性はともに重要 目的との整合性が重要 VS ルールに従うことが重要 未来情報がベース VS 過去情報がベース

投資案件の3つの代表的な評価方法

- 1 NPV法(Net Present Value: 正味現在価値法)
投資に関連して発生するフリーキャッシュフローを予測し、それを現在価値に割り引いて合計し、それがプラスかどうかで評価する方法。
現在価値でいくら儲かるかで評価する方法である。
- 2 IRR法 (Internal Rate of Return: 内部収益率法)
投資案件の年平均投資利回りで評価する方法。
年平均で何%儲かるかで評価する方法である。
- 3 ペイバック法(回収期間法)
投資金額が、何年間のリターン(利益あるいはCF)で回収できるかを計算し、回収期間が短いものを採用する方法。
どの程度の期間で回収できるかで評価する方法である。